

森の案内人交流研修会の概要

① 平成 19 年 11 月 25 日 10 時～15 時 遊学の森こもれび館 (前日 24 日は懇親会)

② 主催 やまがた公益の森づくり支援センター 協力 各森の案内人会

③ 参加人数 39人

④ 研修

井上邦彦氏の講演「もり(森)をこぐ(漕ぐ)やまご(山子)の実践的危機管理と変貌する自然観」

⑤ 森の案内人会からの報告

-1 源流の森

置賜総合支庁福祉課・授産施設栄光園と共同で行った「森を五感で感じよう」の紹介。20 分かけて瞑想の森まで歩きながら、それぞれの感性を刺激するアクティビティを行い、感じたことをプログラムシートを使い、記入してもらった。森の中で楽しく過ごすことができ、みんなでもっと森にいたいと締めくくった。森の散策が無理な方は、クラフト教室を行い、コルクシートに木の実や枝を使い、プレート作りを行った。

-2 県民の森

西公園や西蔵王公園ができて、県民の森への来訪者が減っている。

案内人の当初の目的は、森の案内であったが、現在は、「むうぶ」での木工クラフトが活動の中心で、野外の案内は激減してしまった。

わんぱく教室の弓矢づくりなどでも、職員の方がみんな準備をしてしまい、子供は糸を通すだけ。本来は、木を削るところから一日かけてやりたいと思うし、企画から参加してやっていきたい。手伝いをしているだけで、案内人会としての自主事業もない。

-3 眺海の森

森林教室やきのこの植菌なども行っているが、野外よりも室内での木工クラフトが看板になってしまった。本来は、森林案内が主になるべきだ。

案内人が高齢化している。次に続く若い人を育てていく必要がある。若い方々とも楽しく活動をしていきたい。

-4 遊学の森

今年の特徴として「ビオトープをつくろう」事業を行った。もともとあるもの、自然のままを基礎に、植物・トンボの調査をしながら、今後も整備を続けていく。希少種も発見された。ビオトープも案内のコースに含めながら、楽しめる場にしたい。

来年度は、鉤掛森から秋田の役内までの古道を踏破していきたい。また、神室山も各コースから年一回の登山を行っている。

⑥ まとめ (課題)

-1 決まった人しか参加しないなど人手不足がある

-2 高齢化もあり若手の育成をどうしていくか

-3 案内人の会として自主事業もやりたいし企画からの参加をしたい

-4 森の案内という基本をもっとやらなければならない

⑦ 来年度の交流会について

来年度は6月に眺海の森で開催予定。交流研修会を継続していくことにした。

森の案内人交流研修会の様子

「もり(森)をこぐ(漕ぐ)やまご(山子)の実戦的危機管理と変貌する自然観」と題して、井上邦彦氏よりご講演をいただきました



各森の案内人会の活動発表



全国植樹祭の新聞記事を見せて頂きました



ザックの中に入っているひもやシートを利用した搬送方法や、傷の保護にナイロンテープ（絶縁テープ）を使うなど、山での危機管理が大いに役立ちました

